

山梨県作業療法士会ニュース



やまなし

第95号 2017年7月26日(年3回発行)

もくじ

- 1p インタビュー ～介護予防アドバイザーについて聞いてきました～
- 4p 特集 ～甲斐在宅ネットワークについて～
- 5p 2年目に向けて ～私たちの振り返りと意気込み～
- 7p 理事会だより
- 8p 会員シールの取り扱い・会員手続きについて 編集後記

インタビュー

～介護予防アドバイザーについて聞いてきました～

昨年度、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会 地域支援事業等推進委員会は、介護予防アドバイザー養成システムを構築し、そのアドバイザーの募集が文書により周知されました。

そこで今回は、中心となって活動されている山梨県地域密着アドバイザーである中村圭一先生（健康科学大学 作業療法士）に現状と今後について、お話を伺いました。



質問① まず、地域密着アドバイザーという活動についてお聞かせ下さい。
現在は、中村先生と榊新社の久保田先生がアドバイザーとして活動されていますが、具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか？

A: 山梨県や市町村の担当者とともに、「地域づくりにおける介護予防推進支援事業」を実施しています。介護予防を推進していく事を目的に、国からの広域アドバイザーによる指導と国の研修を受けて山梨県の地域密着アドバイザーに指名されたのが、私(中村)と久保田先生です。「地域づくりにおける介護予防推進支援事業」は住民を主体として、身近な所に集まり、体操や相談などの地域づくりを通して介護予防を行ってまいらしようというコンセプトで活動しています。介護予防推進支援事業では、高知市保健所の所長、堀川医師が開発した、いきいき百歳体操という筋力向上体操をDVDを見ながら手や足に重りをつけて行ってまいります。そうする事で、今までの介護予防事業のように、毎回セラピストや運動指導者などがいなくても自分達で行えるメリットがあり、住民のみでも体力の向上が望めます。

現在は高齢社会であり、平均寿命は延びていますが、健康寿命が課題になっています。介護予防は、高齢者が要介護状態となる事の予防や要介護状態の軽減・悪化の防止を目的として行うもので、特に、生活機能の低下した高齢者に対しては、リハビリテーションの理念を踏まえて、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれ

れの要素にバランス良く働きかける事が重要です。それによって生きがいや自己実現のための取り組みを支援して、生活の質の向上を目指すものです。しかし、実際には、心身機能の改善を目的とした機能回復訓練に偏りがちでした。「活動」「参加」に焦点をあててこなかった結果、生活の改善や社会参加を促す取り組みが、十分でなかったという点や、障害がありそうな方を集めて機能訓練をするつもりでも、実際には人を集めることが大変で、結果が残らないという課題がありました。そこで高齢者が自分の足で通える身近な所で、地域づくりの場を多く作ろうという事です。また、月に1回体操しても体力の向上は望めません。せめて週に1回継続した運動をしないと筋力は戻ってしまいます。さらに、筋肉に負荷をかける事によって、より対象者に合った負荷量と体力の向上を図れます。そして地域住民が顔を合わせる事で、いろんな相談・頼みごとを話す事ができ、自身の身体機能の回復+地域での生活のしやすさ=地域づくりとして繋がっています。

山梨県では平成27年にモデル事業がスタートし、身延町・富士川町・韭崎市・南アルプス市から始めていきました。翌年の28年にはさらに昭和町・上野原市・富士河口湖町が加わり、計7市町を県のモデル事業として行ってきました。



質問② では、次に、そもそも介護予防アドバイザーとは？という基本的な事について、お聞かせ下さい。

A: モデル事業を行ってきた市町村では、地域における集いの場が作られています。現在では、多くて身延町内で40グループ以上(約600人の高齢者が参加)があります。一般的には体操への参加者が、高齢者人口の10%を超えると介護保険料が低下すると言われています。介護保険を使わない人が増えれば、介護保険料を抑制できます。この事業は、高齢者の参加率10%を超える事を目標として行っています。しかし、私(中村)と久保田先生だけでは、各地域を周りきれないという現状です。山梨県長寿推進課では、さらに今年度以降、いくつもの市町村に取り組んでもらいたいと考えており、山梨県では理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会の三士会に協力を得て、県独自の介護予防アドバイザーを養成して行く事を考案しました。そこで養成されたアドバイザーが各地域において、介護予防に関するアドバイスを行えるようにしていくための認定制度にしました。



質問③ 現時点での介護予防アドバイザー(養成)の登録者数について教えてください。

A: 理学療法士、作業療法士(以下OT)、言語聴覚士、合わせて約100人です。



質問④ 介護予防アドバイザーを取得すると、実際どのような活動を行う事になるのでしょうか？

A: 認定を受けたら、まずは山梨県のPOSバンクに登録してもらいます。市町村からの依頼を県が受け取り、POSバンクに登録しているセラピストがその地域に派遣され、支援をしていきます。地域の中の介護予防を

アドバイスしていき、地域における課題をクリアできるセラピストとして活躍してもらえる事を考えています。実際には初級・中級・上級の三段階に別れています。初級は、市町村で行っている一般介護予防事業などで、地域づくりにおける介護予防の推進事業をサポートする役割です。いきいき百歳体操を通して、体操の指導や通いの場の必要性を住民に説明できる事となっています。中級は、地域の中に入っていき、特に支援が必要な方や、医療・介護に繋がりがきれていない方たちを対象に、相談や個々に必要な支援を訪問指導や住宅改修のようなアドバイスをする事を期待しています。上級は、地域ケア会議への参加です。地域の課題全体を解決していく会議と困難ケースにおける個別のケア会議に参加でき、アドバイスできる事が期待されます。



質問⑤ 介護予防アドバイザーの取得にあたって、OTとして必要とされる事はどのような事だと思われますか？

A：私の主観になりますが、地域の方たちの生活の一部になる必要があります。例えば、体操と一緒にやるだけではなく、体操を継続するための仕掛けづくりが必要です。OTとしても大事な意味のある活動を合わせて目的・目標を設定し、体操を継続していく事でどういう未来があるかを一緒に考える事が、自己実現に繋がっていくと思います。実際には、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会が定めた座学の必修研修を受ける事と、地域密着アドバイザーと一緒に地域での実地研修をしていきます。



質問⑥ 最後に今後のビジョンについて教えてください。

A：県下全域で行っていくつもりで、可能なら各市町村に一人以上の介護予防アドバイザーの配置できたら良いと考えています。体操の普及はもちろんですが、地域の課題をリハビリテーションの視点を持って解決できるセラピストを配置していきたいです。

本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。



<インタビューに回答する中村圭一先生>

インタビュー：平成 29 年 6 月 5 日(月)

特集

甲斐在宅ネットワークについて

医療法人 仁和会 竜王リハビリテーション病院
訪問リハビリテーション事業所
作業療法士 飯野知一

高齢化の進展に伴う医療需要の増加、社会保障費の増大、病院から在宅への移行の推進、在宅医療提供体制の強化、地域包括ケアシステム構築のための取り組み等・・・。私たち作業療法士を取り巻く状況は近年、本当に目まぐるしく変化しています。

私は現在、主に当院で訪問リハビリテーションに従事し、日々利用者様の生活に関わらせて頂いています。上記のような社会情勢の変化の中で他・多職種連携、協働という事が言われて久しいですが、地域で利用者様の生活に関われば関わる程、その重要さ、また難しさを感じます。と同時に、他・多職種（もちろん利用者様のご家族も含めて）と一緒に利用者様の事を考えて仕事をする事の楽しさ・面白さも感じています。

今回は、甲斐市の多職種が集まり開催されている「甲斐在宅ネットワーク」について、簡単ではありますがご紹介させていただきたいと思えます。

甲斐在宅ネットワークは、平成21年から地域で開業されている医師と訪問看護師を中心に設立されました。始めは甲斐市における医療連携の推進、顔の見える関係づくり、さらに専門職同士が繋がるネットワークづくりを目的として活動してきました。そのような中、医療連携のみでなく介護保険制度の様々な資源がある中で、私も作業療法士として参加させて頂くことになりました。現在は眼科医師、歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、福祉用具業者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、さらに甲斐市の長寿推進課や地域包括支援センター、中北保健福祉事務所の保健師の方等も参加されるようになっていきます。実際には、甲斐市の現状や今後について市の担当者の方が講演を行ったり、他の職種について理解を深めるといった目的で栄養に関する講義や実際の訪問入浴の設備の見学を行いました。また、歯科往診や眼科往診に関して器具等の紹介も交えた勉強会、人工透析の勉強会、そして在宅でのリハビリテーションの考え方、といった勉強会を行っています。参加人数としては比較的少ないため、それぞれの職種が発言や質問もしやすい会になっているように個人的には感じています。また、今年5月には甲斐在宅ネットワーク・甲斐市合同講演会として、ほくと診療所院長の中島克人先生をお招きして、「地域包括ケアシステムと未来の介護・診療報酬同時改定について」と題した講演会も開催されました。

この会に参加させて頂く中で、各々の職種が各々の立場で地域の事を考えて取り組んでいる事、そして、そういった取り組みが広がっている事を実感しています。私も作業療法士として、他の職種についてさらに理解を深め、同時に作業療法についても知って頂き、地域の中で頼ってもらえるように繋がりを持っていきたいと思っています。



医療や介護と言うと明るい話題にはどうしてもなりづらく、どんよりとした雰囲気が世間には充満しているように思います。しかし、こんな風に地域で活躍している方達と繋がる場がある事は、自分の中にもあるそんな雰囲気をほんの少し取り除いてくれる気がしています。

2年目に向けて

～私たちの振り返りと意気込み～

新年度が始まり新人を迎え、去年は新人だったOT達の今の気持ちと意気込みを、2年目作業療法士の5名と、養成校教員2年目の先生に寄稿していただきました。

「一年目を振り返って」

医療法人 回生堂病院

増田 優季

入職当初は経験や知識不足の中で患者様や他職種の方と関わることが日々緊張の連続でしたが、少しずつプログラムの進行や患者様との関わりにも慣れてきたように感じます。

患者様と関わる中で、その方に合ったOTを提供する為には、関わらせて頂くOT自身のスキルが重要だと感じています。学生の頃によく、OTは生涯勉強だと言われてきましたが本当にその通りだなと痛感しています。経験や知識を身に付けながら患者様や他職種から必要とされるセラピストを目指し、日々の振り返りや気付きを大切にしながら今後も努力していきたいと思います。

「2年目に向けて」

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

秋葉 俊介

作業療法士として働き出して二年目。まだまだわからない事も多く、頭を抱えてしまう日が多いです。しかし、その中で患者様の「その人らしさ」を引き出し、その部分を活かした中で、笑顔で在宅へ帰られる姿を見ると、この職業を選んで本当に良かったと思います。まだまだ未熟者で、これからもたくさんの課題が出てくるかと思っています。その中で、少しでも多くの患者様の力になり、今後の生活の中で笑顔で過ごしてもらいたいです。その為に、たくさん悩み、他職種と協力し、多くの先輩方の力も借りていながら頑張っていきたいと思っています。

「2年目に向けて」

恵信甲府病院

末木 道彦

私が作業療法士になり始めて担当した患者様は忘れられない。評価をしようにも「そんなこと申し送りを見ればわかるでしょ」とやらせてくれない。会話を持ち掛けようにも揚げ足を取られてばかりで、恨みでもあるのかと思った。自助具の作成依頼も何度かされたが、作業療法の時間を使っての作成適合は認めてくれない。その方が夢に出てきたことも一度や二度ではなかった。でも、その方がご自宅に退院できた日、私の気持ちは充実感であふれていた。あの方の担当をやり遂げることが出来た今なら、どんな方が担当でも乗り越えられると思う。今となってはいい経験だったと胸を張って言えると思う。

「2年目に向けて」

山梨厚生病院

猪狩 朋佳

山梨厚生病院に入職し、この一年間で多くの経験をさせていただきました。私は人の生活や人生に寄り添う作業療法士に憧れてこの職に就きました。しかし実際には、常に患者様の生活を見据えて考えることが出来ず、自分の知識や技術、考え方の未熟さを日々感じています。温かく相談に乗って下さる先輩方、「忘れないよ、ありがとう」と言って下さる患者様、家族等周りの人に助けられてこの一年間やってこられました。とても感謝しています。作業療法士を志した時の気持ちや、周りの方々への感謝を忘れず今後も精進していきたいです。

「長期療養病院における様々な疾患の患者様と繋がりを築いた1年」

竜王リハビリテーション病院

野久 晴加

入職当初から認知症や失語症を呈した方を担当する事が多く、接し方に悩む毎日でした。その為「コミュニケーションを上手に取りたい」と考え、他の先輩方の接し方や勉強会等で疾患の理解に努めました。多くの患者様と関わる中で、単語であれば伝わる方、文字盤で伝えられる方等様々な患者様を知る事ができ、少しですが患者様の理解に繋がったと実感しています。その事が最も成長できたと感じており、患者様にとっても感謝しています。まだまだ悩む事はありますが、2年目では患者様との関わりに自分の個性も発揮していきたいです。

「教員2年目に向けて」

健康科学大学 作業療法学科

小川 麻里子

私が母校の健康科学大学作業療法学科の助教となって2年目を迎えました。昨年度は初めての仕事に戸惑いも多くありましたが、学生が懸命に学ぶ姿勢をみて自身の学生時代を思い出しながら取り組みました。恩師のように学生の意見を否定せず、個性を大切にしながらも正しい方向へ導ける教員を理想としていますが、一人一人の学生とじっくりと向き合って指導することは簡単ではありません。今年度も引き続き学生たちと真摯に向き合いながら、既成の枠にとらわれず自由な発想を持った立派な作業療法士の誕生に貢献できたらと考えています。



※各題名は編集の都合上、寄稿していただいた文面を参考にさせていただく方もおります。

理事会便り

一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第7回 理事会議事録

日 時：平成28年11月22日(火)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、松田、磯野、関谷、
佐尾、宮尾、佐田：13名

1. 副会長(廣田・古屋)

1)平成28年10月26日(水)山梨県教育庁インクルーシブ教育システム推進
会議合理的配慮部会へ出席

2)平成28年11月13日(日)(一社)日本介護支援専門協会平成28年度甲信
越ブロック研修会及び(一社)山梨県介護支援専門員協会第6回地域支部
連携研究大会へ出席

3)平成28年11月19日(土)・20日(日)(一社)日本作業療法士協会認知症
作業療法推進会議へ松田理事と出席

2. 事務局(三瀬)

<管理部>

1)会員数548名(平成28年11月22日現在)新規入会2名

3. 社会局(濱田)

<渉外部>

1)平成28年11月2日(水)峡南広域支援センターにて濱田理事が地域包括
の多職種連携について講義を行った

4. 学術局(佐尾・宮尾)

<学術大会運営部>

1)第9回山梨県作業療法学術大会

テーマ：「輪～生活と未来をつなぐ作業療法～」

日 時：平成28年10月30日(日)

会 場：山梨市民会館

特別講演：藍見よしみ(一般社団法人日本介護支援専門協会会長、
一般社団法人山梨県介護支援専門員協会会長)

参加者：124名(内学生8名、一般参加3名)

5. 特設委員会(松田、関谷、磯野)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)テーマ：第2回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年10月19日(水) 参加者：19名(内発表者5名)

2)テーマ：第3回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年11月8日(火) 参加者：11名(内発表者6名)

3)テーマ：第4回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年11月17日(木) 参加者：6名(内発表者2名)

<認知症対策推進委員会>

1)認知症ウォーキングスタンプラリー大会

日 時：平成28年10月16日(日) 参加者：約200名

2)甲府市認知症地域公開講座

日 時：平成28年11月9日(水) 参加者：約90名

一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第8回 理事会議事録

日 時：平成28年12月27日(火)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、三瀬、長坂、野上、中島、米山、関谷、松田、磯野、
有泉、濱田、佐尾、宮尾、佐田：15名

1. 事務局(三瀬)

1)(一社)日本作業療法士協会より、運転と作業療法に関わる都道府県士会
協力者について依頼 → 野上理事を推薦

2. 学術局(佐尾・有泉・宮尾)

<学術大会運営部>

1)学術大会および現職者共通研修における査読者について、選出基準を検
討。任期は2年で依頼を行っていく

3. 常設委員会(松田、関谷)

<福祉用具委員会>

1)平成28年12月10日(土)(一社)日本作業療法士協会の福祉用具シス
テム合同会議に大平純江(自宅)が出席

4. 特設委員会(松田、米山、磯野)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)テーマ：第5回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年11月22日(火) 参加者：13名(内発表者5名)

2)テーマ：第6回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年12月6日(火) 参加者：24名(内発表者5名)

3)テーマ：第7回MTDLP事例検討会

日 時：平成28年12月12日(月) 参加者：23名(内発表者6名)

一般社団法人山梨県作業療法士会 2016年度 第9回 理事会議事録

日 時：平成29年1月26日(木)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、磯野、松田、関谷、宮尾、佐尾、
米山、野上、中島、濱田、有泉、佐田：16名

1. 事務局(三瀬)

<管理部>

1)会員数547名(平成29年1月26日現在)新規入会1名、休会1名

2. 学術局(佐尾・宮尾・有泉)

<学術大会運営部>

1)COIの申告については、(一社)日本作業療法士協会を参考に作成する

3. 特設委員会(松田、関谷、磯野)

<特別支援教育OT委員会>

1)テーマ：つながり・ふれあい・作ろうの会

日 時：平成29年1月22日(日)

内 容：発達障害のお子さんのレクリエーション及び料理補助
参加者：34名

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)テーマ：第8回MTDLP事例検討会

日 時：平成29年1月12日(木) 参加者：17名(内発表者5名)

テーマ：第9回MTDLP事例検討会

日 時：平成29年1月24日(火) 参加者：12名(内発表者6名)

一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。

一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きます様お願いいたします。



連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒400-0831 山梨県甲府市上町 753-1
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内
FAX : 055-241-8660 (代)
TEL : 055-241-5811 (代)



編集後記

今号で山梨県OT士会ニュースとしてはおそらく初めてインタビュー記事を企画・掲載しました。ご意見など聞かせて頂ければと思います。(い)

6月に植えた野菜たちが少しずつ成長してきています。水をあげるのが楽しみです。(浅)

夏の家族旅行の行き先が全く決まりません。本当に行けるか不安(精)

最近体重が増加気味。ジムにも通うが月に1~2回。3カ月で-3kg減らしたいと思います。(み)

“2年目にむけて”の一部を担当させていただきました。あの頃目指していたOTRにはまだまだだなぁ、と反省したり、もっと頑張ろうと思ったり・・・。(ふ)

夏と言えば・・・お酒!! 飲みすぎにはご注意を(笑)(稲)

炭酸水がマイブームに! ビール代わりに飲んでます(笑)(内)

発行人: 山本 伸一

編集人: 中島 雅人・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・浅川 良太・精進 智規・三森 友樹・稲葉 峻太

イラスト: いらすとや

発行所: 一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

竜王リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション事業所

〒400-0114 山梨県甲斐市万才287 TEL 055-276-1155 FAX 055-279-1262

印刷所: (株) 島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居1534 TEL 055-233-8829